

らいぶ LIVE 創 REATOR つくりえいたー

NO.51
2010年6月
研究広報誌

学びの質の高まりをめざして

～「吟味を生み出す対話」をつくる～

CONTENTS

- 夏季教科領域別研修会2010のご案内……………1
- 複式研を終えて：「第10回複式授業研究会を終えて」……………2
- 学習紹介：「ひっ算の計算の仕方」……………3
- 学習紹介：「意味マップを活用して意味や文のつながりから読み深める」……4
- 学習紹介：「省察する子どもを育てる」……………5
- 学習紹介：「みんなで楽しめるタグラグビー」……………6
- 保健室：「子ども一人ひとりをよく知っている保健室をめざしています」…7
- 本紹介：「時間数（量）ではなく質の高い学びをめざす」……………8

29日(木)

午前の部 9:30～12:00

午後の部 13:30～16:00

外国語 来年度から全公立小学校で開始される外国語活動の授業展開についてワークショップを行います。(5C教室)

社会 和歌山ラーメンといえば井出商店！(有)井出商店の井出紀生氏をゲストに迎えて「仕事へのこだわり」などを教えていただきます。後半は、地域教材についての単元計画を練り社会科学習について話し合います。(会議室)

生活・総合 “よりよく問題を解決するための資質や能力を育むために”実践発表・ワークショップ講演(市川純夫先生：和歌山大学)の3本立てで和歌山市の生活科・総合の教育研究発表会との共催で行います。(会議室)

理科 共同研究開発校と本校の実践発表を通して、学習指導要領改訂にともなう“理科の学び”を考えていきます。後半は、松本勝信先生(大阪教育大学)にご講演いただきます。(中学校多目的室)

国語 午前：共同研究開発校である、和歌山市立新南小学校と加太小学校の実践発表と午後からの教材研究をします。(オレンジルーム)

午後：丸山範高先生(和歌山大学)を迎えて、本校5年生の校内研究授業「わらぐつの中の神様」のビデオ検証を行います。今年も和歌山市国語教育研究会との共催で実施します。(オレンジルーム)

学校保健 保健指導の実践紹介の後、本山貢先生(和歌山大学)をコーディネーターに迎えて、ワークショップ形式で効果的な保健指導を楽しく考えます。(2A教室)

30日(金)

午前の部 9:30～12:00

午後の部 13:30～16:00

図工 今年度は、和歌山市小学校図工教育研究会との共催で行います。永沼理善先生(和歌山大学)を講師先生に迎えて、一緒に楽しんでもらえる実技研修を計画しています。(オレンジルーム)

算数 本校で1学期に行った実践紹介と佐藤学先生(関西国際大学)をお迎えしての講演会を予定しています。(オレンジルーム)

音楽 新学習指導要領本格実施を来年に控え、今、取り組まなければならない音楽科の課題について本校の実践報告をもとに、佐野靖先生(東京藝術大学)に講演していただきます。(第一音楽室)

家庭 前半は「生活力を育む」をテーマにした授業実践紹介、後半は「粒食と粉食」をテーマにした「米の変身」の授業実践から実際に米粉を使った調理実習を一緒に体験していただきます。(家庭科室)

複式 本校における1学期の実践紹介や講師先生を迎えての複式授業についてのお話や参会者を交えた実践交流を予定しています。(会議室)

体育 本校の今年度の実践をもとに、豊かな吟味を生む支援のあり方を皆様と一緒に考えたいと思います。(会議室)

夏季教科領域別研修会2010

～ご案内～

参加費：1,000円(資料代を含む)

当日受付も行いますが、

準備の都合上、事前の申込みをお願いします。

◇再入場の際には領収書をご提示下さい。

参加申込みは、FAXまたは本校HP(→8頁)でお願いします。

当日は本校運動場を駐車場といたします。

正門左の通用門よりお入りください。

第10回複式授業研究会を終えて

6月18日(金)本校複式学級におきまして、第10回複式授業研究会を行いました。天候が悪かったにもかかわらず、遠くは東京から、総数55名の方がお越しく下さいました。

公開授業Ⅰでは、3・4年生複式の国語科(3年生「聞き耳ずきん」4年生「いろはにほへと」)の授業と、5・6年生複式の理科(5年生「花から実へ」6年生「生物とかんきょう」)の授業を行いました。

公開授業Ⅱでは、1・2年生複式の算数科(1年生「あわせていくつ ふえるといくつ」2年生「たし算とひき算のひっ算(1)」)の授業と、3・4年生複式の理科(3年生「かげのでき方と太陽の光」4年生「1日の気温の変化」)の授業を行いました。

そして午後からの協議会では、まずワークショップを中心とした全体会を行いました。それぞれの学校の複式での取り組みや悩みなど、少人数で交流しました。子どもたちによる“司会”“記録”の仕方や授業に向かう姿勢など、教科を超えた子どもたちの育ちについて、率直な意見を交換することができました。短い時間ではありましたが、とても中身の濃い交流であったと思います。

引き続き行いました各教科の協議会では、教科を中心として、さらに活発に討議することができました。

皆様からいただいたご意見をもとに、今後も主体的に学び合う複式教育をめざしていきたいと思ひます。

より成長した子どもたちの様子を、10月30日(土)の教育研究発表会2010においてご覧いただきたいと思ひます。

ご参加ありがとうございました。

今後とも、和歌山大学教育学部附属小学校複式部をよろしくお願ひします。



1年生にとっては、初めての研究会。ちょっと緊張してるかな??



6年生は、自分たちで話し合いを進めています。



グループで自分たちの考えを話し合う3年生(下)と4年生(上)。



午後の部 全体会より



ひっ算の計算の仕方

—どの子ども目を輝かせることができる授業—

算数科
2年C組担任
土岐 哲也



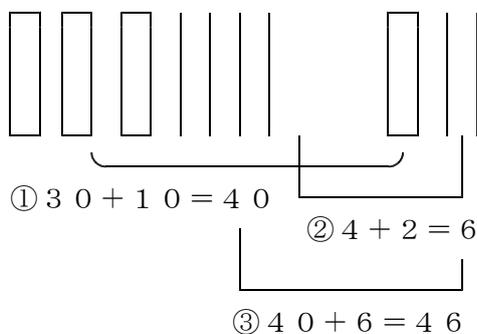
算数において先行知識を身につけている子が多くなってきている。もちろん少数派であるが「知らない」という子もいる。どの子ども目が輝く授業とは、どのような授業だろうか。『たし算・ひき算の筆算』の学習を通して考えてみたい。

算数的活動を重視した場面

たし算・ひき算の筆算の学習では、①位をそろえて計算する。②下の位から上の位へと計算する。これらを身につけさせることが大切である。加えて、繰り上がり・繰り下がり「しくみ」や下の位から計算する「よさ」を感じさせたいと考えた。そこで、導入として

34 + 12の計算の仕方を説明できるかな

を数え棒を活用して考えさせた。「位をそろえて計算すること」を意識づけるための活動である。子どもたちの考えは、①30と10で40、②4と2で6、③40と6で46（図1）であった。この時、計算の順番を確認したが、4 + 2を先にするという声は聞かれなかった。先行学習をしている子どもたちは、筆算と結びついていないのであろう。ある程度期待はしていたものの意外であった。次に



(図1)

34 + 12を筆算でしてみよう

と課題を与え、「30と10で40」と言いながら、次のように十の位のところに4と板書した。(図2)
これには子どもたちも「ちがうよ。」「そうじゃない。」と口々に騒ぎ始めた。

$$\begin{array}{r} 34 \\ + 12 \\ \hline 4 \end{array}$$

(図2)

根拠を考えさせる場面

「筆算は一の位から計算するんだよ。」と子どもたちは言う。そこで、「そうかなあ、どちらから計算しても答えは46になるよ。」と応戦する。いくつか繰り上がりのない筆算もやってみる。すると、「繰り上がりのときに困るよ。」と言い出した。37 + 26の筆算を板書。子どもたちは、「それ、それ。」「それだと一の位から計算しないとだめだ。」と言う。そこで、「3と2で5だけど、本当は30と20で50だから50と書こう。」と言って(図2-1)のように板書した。すると、「それは違うよ。7 + 6は0じゃないよ。」と言う。「それはこれからするよ。」と言って(図2-2)のように書いた。「これで間違っていないでしょ。」と言うと、子どもたちも「間違っていないけど・・・」と言うものの「本当に良いのかなあ」という顔をしている。磁石玉を使って答えを確かめた。

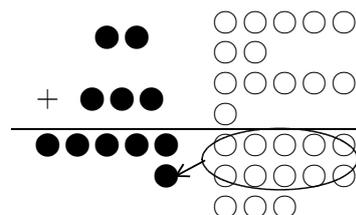
次に、「今度は、みんなが言うように一の位(白玉)からやってみようか。」と言って、(図3)のようにした。子どもたちは、「それが繰り上がりだ。」「6 + 7 = 13の1が、十の位に繰り上がるんだ。」と言う。そこで、『十の位に繰り上がる1』はどれかな？(白玉10個で黒玉1個)」と尋ねた。

$$\begin{array}{r} 37 \\ + 26 \\ \hline 50 \end{array}$$

(図2-1)

$$\begin{array}{r} 37 \\ + 26 \\ \hline 13 \\ \hline 63 \end{array}$$

(図2-2)



(図3)

今回の学習で、筆算の計算の仕方をただ機械的に実行するのではなく、計算のイメージをもたせることができたと思う。また、どの子ども目を輝かせて学習できたようである。

意味マップを活用してつながりから読み深める ～「白いぼうし」の実践より～

国語科
4年A組担任
北川勝則



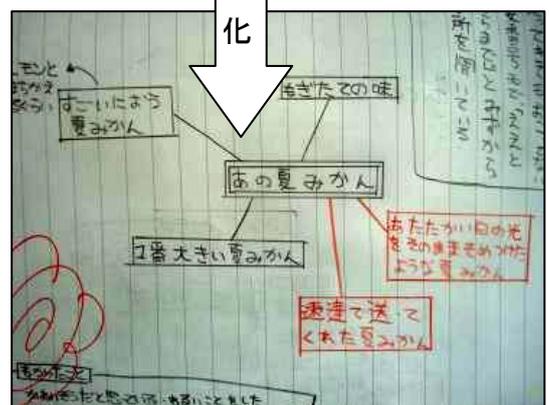
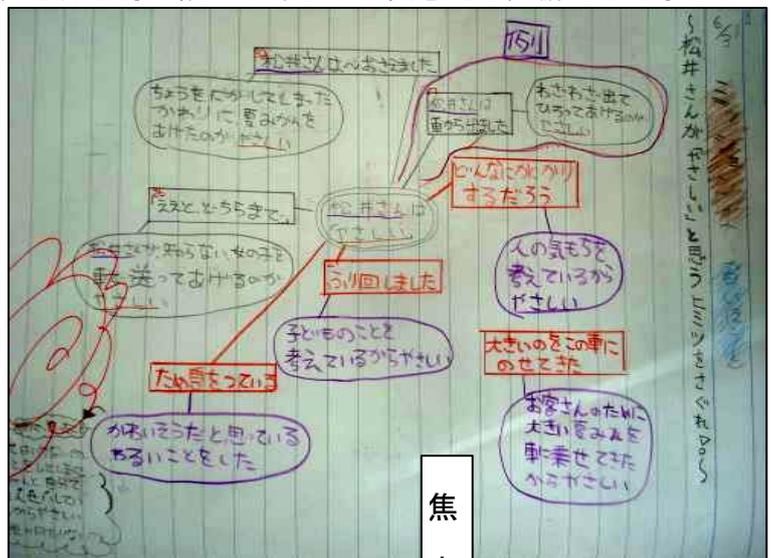
「意味マップ法」とは、塚田泰彦（筑波大学）が提唱しているもので、今年度の国語授業ではそれを参考にし独自にアレンジして使っている。マッピング（mapping）とは、語句を線で結んで、蜘蛛の巣状に張り巡らしていくことで、知識や考えを拡充したり整理したりする方法である。この方法の利点については、以下のようなものがあげられる。

- ①言葉と言葉や文と文のつながりが明確になる。
- ②新たなつながりに気づいたときには、線で結び追加表現が容易にできる。
- ③視覚情報としても意見を取り入れることができ、音声情報だけでは理解が難しい児童が話し合いに参加しやすくなる。
- ④色分けされ追加されたマップを見れば、自分自身の読みの深まりが実感でき、協同して学ぶよさにも気づける。

この「意味マップ法」を使っでの実践の一部を紹介する。単元名は「われら4A読書たんてい団～『車のいろは空のいろ』のひみつをさぐれ～」である。

課題1「松井さんが『やさしい』と思うひみつをさぐれ」では、読み手が松井さんの人柄がやさしいと思うようになるひみつについて、意味マップを使い一人学びをしていった。この時点から「運転席から取り出したのはあの夏みかんです。」を根拠の一つとする児童は多かった。しかし、それは「松井さんは、誤って逃がしてしまったちょうのかわりに夏みかんをぼうしに入れてあげるのがやさしい。」という比較的表面的な読みのレベルである。

全体の話合いの場で、この文が検討されたとき、「『あの夏みかん』ってどんな夏みかん？」と投げかけ、意味マップで「あの夏みかん」につながる言葉や文を考えさせた。子どもたちからは、「速達」「おふくろがくれた」「日の光をそのままそめつけたような色」「一番大きな」「もぎたて」などの言葉や文が出され、松井さんにとって「あの夏みかん」が非常に大切なものであることに気づくことができた。そこから、そんなに大切な夏みかんを、ぼうしの持ち主の気持ちを考えて、ちょうの代わりに入れてあげるという松井さんのやさしさの程度にまで読み深めることができたのである。



児童の振り返り

- ①松井さんはすごくやさしいんだなと思いました。そして、あのみかんはただのみかんじゃなくいろいろな気持ち・思い出がつまっている夏みかんだということがわかりました。
- ②松井さんは、さいしょちょっとだけやさしいと思ったけど、きょうべん強して、めっちゃ（とても）やさしいと思いました。
- ③松井さんがぼうしに入れた夏みかんは、いろんなことがある。そんな夏みかんをぼうしに入れた松井さんもえらい。

せいさつ

省察する子どもを育てる

～ものの燃え方の単元より～

理科

6年C組担任
馬場敦義



★自分の学びを振り返ることができる子どもへ

今年度理科部では、自然事象の“本質”をさぐる理科の学びを研究しています。特に課題解決の過程の中に子どもたちが“省察”する場をつくっていきます。“省察”する場とは、自分自身の考えを省みて、考えをめぐらせる場です。具体的な手立てを2つ紹介します。

★見えないものを見えるように

『イメージ図』 目で見えるものだけで考えていくのではなく、目に見えない現象もあたかも目に見えるようなものとして扱うことで子どもたちの見方・考え方を深めていく。そのために、理科部ではイメージ図で表出をさせることを大切にしています。イメージ図の有効性については、以下のように捉えています。(SSTA 第2期リーダー養成セミナー3・4班資料を参考)

「ものの燃え方」の単元は、現象が目に見えない（単元の問題点）

子どもたちは見えないものを見ようとしている（子どもたちの思い）

イメージ図を用いて表出すると（見方や考え方を共有する手立て）

- 自分の頭の中のイメージを整理し、自覚できる
- 見え方の共通点を共有できる
- 見え方の相違点を明確にできる
- 不思議さを実感できる
- 自分の考えの整合性を確認できる

イメージ図の有効性

対話の深まりへ

空気の流れをかき入れよう（予想は黒の影線で/結果は赤などの影線やペンで）

空気の流れを表したイメージ図

気がついたこと、発見したこと、疑問に思ったこと（その理由や根拠）

自分が考えた、予想とぜんぜんちがった。

④の方は、上の所のほしはしたが、上Fにはわりがなた。

⑤も④と上の所は、同じだけど、⑤は、下Fにあるから、下の所は、上の方と同じ、鏡のようだった。

でも、上Fは、見えたけど、ぶらぶらがある。まじながF所は、見えなかつた。

★『イメージマップ』

☆実験1の後のイメージマップを見て、考えたこと

- 実験1をすると一つの考えからいろいろつながっていった。
- けおりについての事が詳しく書けた。

これまでは、単元導入時と単元終了時の振り返りとして、イメージマップの作成を行っていました。今年度は、実験ごとに振り返りの時間をとることにしています。また、振り返りの日にちごとに色分けすることにしました。そのことで、単元における自分の考えの変容がよくわかるのではないかと考えています。さらに、イメージマップを見て、考えたことをワークシートに書かせています。

☆実験2の後のイメージマップを見て、考えたこと

- ガラス管の中の空気で、何がどれだけあるかが書けた。
- 疑問や結果が書けた。

理科では、対象に対する自分の見方・考え方をより科学的な見方・考え方へと変容させていくことを目指しています。そのなかで、「自分が知りたいと思っていたことがどこまでわかったのか」、「友達の考えと比べて自分の考えは適切なのか」、「自分の考えですっきりしないところを友達の考えで解決できないか」など問い直したり、「課題に対して、自分がどこまで近づくことができているのか」と振り返ったりすることは大切なことだと考えています。イメージ図やイメージマップを描かせることで、学びの質を高めていくようにしていきたいです。

みんなで楽しめる「タグラグビー」 ～校内研修を前にして～

体育
6年B組担任
上野 佳彦



★運動の特性に触れ、夢中になって運動に親しむ子どもを育てる。

体育学習では、子ども様子をしっかり見とり、子どもにとって手のとどきそうな内容を指導・支援することで吟味が生まれ、自己の更新が可能となる。こうして学びの質を高めていくことで、運動の特性にふれ、夢中になって運動に親しむ子どもを育てることができると考えている。

そこで、子どもの見とりを①「意欲関心」②「技能レベル」③「作戦レベル」④「仲間との関係（チーム内または、他のチーム）」の4つの観点を中心に学習カードと体育ノートに書かせるようにして、それを手がかりに子どもに合った指導や支援をするように努める。

また、全体的な子どもの見とりとして、下の学習カードの5項目についてそれぞれ点数化したものを平均し、毎時間比較し学びの質の高まりが見られるかを客観的に確認することにした。明らかに低下している時や低いレベルで伸び悩んでいる項目については、その原因を検討し、効果的な一斉指導をしていきたい。



★学習の進め方

1. めあて チームで協力しあって、攻め方・守り方を工夫してゲームを楽しみましょう。
2. 学習の進め方

	1	2	3	4	5	6	⑦
0	はじめに	ねらい1		ねらい2			
4 5							

ねらい1 ルールやチームに慣れながら、いろいろなチームとゲームをして楽しむ。(総当たり戦)

ねらい2 自分のチームや相手チームの特徴を考えて、攻め方や守り方を工夫してゲームを楽しむ。(対抗戦)

3. はじめのルール

- ・コート広さ (30m×12m)
- ・センターラインからスタート
- ・スローフォワードは反則、そこから相手ボール
- ・タグをとったら「タグ」と大きな声で言う。
- ・タグをとられたら、ストップ (2～3歩進んで止まってもOK) して味方にパスをする。
- ・タグ後のはじめのパスは、カットできない。
- ・タグをとった人は、パスした後返す
- ・タッチラインからでたら相手ボール
- ・トライしたら1点 その後相手はセンターラインからスタート
- ・押したりぶつかったりしてはいけない。



★見取りと支援のための手だて

作戦の広がり・・・学習カードで、相手チームのいいところについての記載を取り上げ紹介する。

作戦の共有化・・・ホワイトボードの活用。

学習の高まり・・・学習カードの観点を数値化し、個別指導の必要性、チーム指導の必要性、ルール追加の機会、作戦の飽和状態を検討し次時の指導に生かす。

《本校の夏期研修会で、このタグラグビーについて皆様にご意見をいただきたいと考えています。》

子ども一人ひとりをよく知っている
保健室をめざしています

保健室

養護教諭

保健指導

畠村誉子

伊澤亜紗



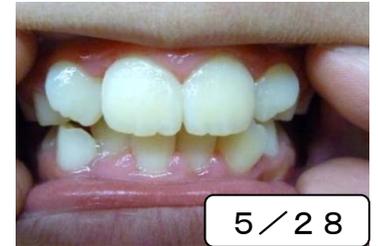
私達2人が日頃心がけているのは「子ども一人ひとりにていねいにかかわること」です。

日々、教職員と連携しながら取り組んでいるその一端をご紹介します。

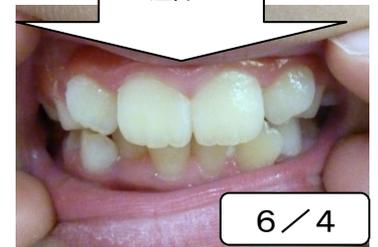
【歯科検診後の個別ブラッシング指導】

歯科保健指導といえばクラス単位の一斉指導を考えがちですが、一人ひとりにあった指導をしたいと考えています。そこで、歯科検診の結果、歯垢・歯肉の状態が要観察と指摘された子どもを対象に、お昼休みにブラッシング指導を実施しています。かがみで歯垢の付着箇所や歯肉の腫れを確認し、その子にあったブラッシングを指導しています。

今年は、来室日と1週間後の歯肉の状態を写真に撮って比べています。歯肉の腫れが軽減したことが一目瞭然で、子どもの努力によって健康が増進されたことがよくわかります。



前歯の間の歯肉
に注目！！



【忙しくてもベッドサイドへ、ソファーへ】

体調不良を訴えて来室する子どもには「しんどい」「お腹痛い」などの訴えを聞きながら、まずバイタルサインのチェックをします。そして、額や頬、痛いところに触れながら、昨日からの生活や今朝の様子、食事、排便などの健康状態を確認していきます。

休養する子どもには、できるだけデスクワークの手を止めて話を聞くようにしています。ソファーやベッドで柔らかい毛布やふとんに包まれるとほっとするのか、聞かれたことに答えるうちに自分からいろいろなことを話し始めます。



中には「こんなこと友だちに言えないから」「お母さんに言うなって言われているんやけど」と、今まで我慢していたことを吐き出すように話し始める子もいます。ほんの些細なこともあれば子どもが抱えるには大きすぎる問題のこともあります。もちろん、何も話さない子もいます。痛むところをしばらくなでていると、スースーと眠り始める子もいます。

養護教諭が子どもと1対1でからだのケアや保健指導を行うことは、子どもが「自分のことを大切にしてもらえている」という安心感を持つことができると考えています。これが、子どものこころの安定や成長につながります。また、子どものことをよく知ることができる機会となります。よって、次回のケアや保健指導ではさらにその子にあったかかわりができるようになり、一層効果的なケアや指導になります。

6年間を通して一人ひとりの子どもにていねいにかかわり、よく知ることで、子どものからだところの成長を促す保健室をめざしています。

時間数(量)ではなく
質の高い学びをめざす
～Less is more.～少ない量で豊かに学ぶ～

出版編集担当
江田 司
(音楽専科)



■質の高い学びを創る授業改革への挑戦
—新学習指導要領を超えて—
佐藤学・和歌山大学教育学部附属小学校〈著〉
(東洋館出版社・1,800円＋税／教育一般書)

- ◆悲しいことですが、学校(スクール)の起源である閑暇(スコール)はどこに消えてしまったのでしょうか？
- ◆学習量が多ければ、子どもの学力が伸びるとは限らない。いやむしろ逆であることを、本書の冒頭で佐藤学さんが外国研究から明らかにしています。
「発刊にあたって」から：松浦善満氏(前校長・現教育学部長)

「少ない量で豊かに学ぶ／Less is more.」すなわち「量から質への転換」これが本書の提案です。子どもにとっても教師にとっても、スクールはスコールでなくなれば息が詰まるばかりです。

新学習指導要領を超える「学びの質を高める」キーワードは何か？ それらを「小さな物語」とともに提供しています。

〈いま学校現場が求めているものは何か〉〈新学習指導要領を超えるヒントは？理論は？(佐藤学)〉〈現職教育を変える工夫〉〈ICT戦略／推進物語〉〈近未来教室へのヒントとしての異学年複式学級の試み〉〈ペア学習からグループ学習へ向かう教室改革〉〈国語科を中心とした学びの質を高める実践3例〉〈図書コーナーの充実〉〈プロジェクト型学習のデザインとしての教科領域等授業5例〉〈ジャンプのある学びを生む教科等授業6例〉そして〈佐藤学氏の魅力と「学び」の共同への考察〉等々。

本書の企画にあたっては、手に取って開いて頂ける「読み物」にしたいと常に考えていました。従来の附属校スタイルにありがちな研究報告を避けて、読者が読み進める上で負担になる図表や学習指導案、作文などをできるだけ省くようにしました。コンセプトは、学校改革、授業改革、教室改革を、小さな変化〈物語〉から語ることです。一断面の集積であれば「一般の公立学校でこそ取り組める内容」となると考えたからです。また、本書の魅力は何と云っても、佐藤学先生に指針を頂いているところにあります。「Here now! (いま ここで)」大切なことは何なのか、為すべきことは何なのかを激励の言葉とともに語られています。ご一読ください。

本書は、出版企画開始から3年半をかけ昨年11月に発刊されました。以来、アマゾン(amazon.co.jp)の「教育一般書ランキング>学習指導」で、12月末堂々の第7位、2月及び3月は再々第7位、そして6月は第6位と驚異的な売り上げを記録しています。読まれた方々からは「手にとって読みやすい」「職場の先生方にアイデアとして提供できるものがある」と好評を頂いています。なお書評は、佐野靖氏(東京藝術大学/ONKAN ウェブネット・Report & Information「2010年1月号」)、江利川春雄氏(和歌山大学/江利川研究室ブログ「2009/11/20」)、日本教育新聞「読書」欄(6月14日/第5789号)等々で頂いております。

From Editors

『らいぶ・創りえいた一』も10年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。

本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されれば幸いです。

編集委員：藤原，上野，梶本，松尾，江田

和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137 和歌山市吹上1丁目4番1号
TEL (073) 422-6105
FAX (073) 436-6470
URL <http://www.aes.wakayama-u.ac.jp>
E-mail fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp